

1. 日 時 令和6年7月9日(火) 17:30~18:55

2. 開催場所 仙台市役所本庁舎8階 第三委員会室

3. 出席委員名(敬称略)

役職	氏名	出欠
会 長 (東北福祉大学 特任教授)	鈴木 玲子	○
副会長 (東北学院大学 教授)	岡崎 勘造	○
委 員 (アイスリンク仙台 専属インストラクター)	阿部 奈々美	○
委 員 (仙台市議会議員)	猪又 隆広	○
委 員 (仙台市小学校教育研究会体育研究部会 常任委員)	岡本 美佳	○
委 員 (仙台市学区民体育振興会連合会 副会長)	尾地 浩	○
委 員 (仙台市スポーツ協会 副理事長)	草刈 恵佐雄	○
委 員 (仙台市障害者スポーツ協会 理事長)	熊谷 勇一	○
委 員 (仙台市レクリエーション協会 会長)	小池 和幸	×
委 員 (仙台市スポーツ推進委員協議会 常任理事)	佐藤 園子	○
委 員 (東北学院大学 教授)	篠崎 剛	×
委 員 (仙台市中学校体育連盟 会長)	洞口 乃	○
委 員 (仙台大学 准教授)	弓田 恵里香	○
委 員 (仙台市スポーツ少年団 本部長)	吉田 尚	○

4. 説明に出席した者の職・氏名

文化観光局長	柳津 英敬
スポーツ振興課長	吉田 勝則
スポーツ振興課 企画係長	土屋 直樹
スポーツ振興課 総括主任	工藤 薫

5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 報告事項及び議事の内容

進行役：鈴木会長

議事録署名人の指名：弓田委員

鈴木会長

次第に基づきまして、進めてまいりたいと思います。

まず、本日の会議事録へ署名いただく委員につきまして、指名させていただきたいと思いますが、今回は弓田委員にお願いしたいと思います。弓田委員よろしいでしょうか。

弓田委員

わかりました。

鈴木会長

それでは、弓田委員に議事録への署名をお願いしたいと思います。

これより報告事項に入りたいと思います。報告事項1 令和6年度主要事業等について、報告事項2 スポーツ関係団体への補助金の交付について、事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、事務局よりご報告させていただきます。令和6年度主要事業等についてご報告いたします。報告資料1をご覧ください。令和6年度の主要事業として、仙台市の主催事業と共催事業を中心にまとめております。各種スポーツイベント、スポーツ大会につきまして、記載事業の中から、一部の事業についてご報告申し上げます。1番の仙台国際ハーフマラソン2024は、去る5月12日、コロナ禍前の1万人規模で開催いたしました。当日は、高温と強風という難しいコンディションの中でしたが、総勢9,209名のランナーの方々にご参加をいただきました。続いて、B市民参加型イベント、1番の仙台泉ヶ岳トレイルラン2024は、市民参加型のアウトドアスポーツイベントとして開催予定でございます。2ページ目のマイタウンスポーツデーは、本市のスポーツ施設を無料開放し、市民が気軽にスポーツに親しめるイベントとして定着しており、今年もスポーツの日開催予定です。C地域スポーツ大会は、すべて昨年度も実施している事業を今年度実施するものです。3ページ目のDその他では、スポーツコミッションせんだいが誘致活動を行い、国際・全国規模大会を開催予定です。以上が令和6年度主要事業等についての報告でございます。続きまして、報告資料2、スポーツ関係団体への補助金交付についてご報告いたします。令和6年度及び令和5年度のスポーツ関係団体への補助金の交付状況をまとめております。仙台市のスポーツ関連の5団体である、仙台市学区民体育振興

会連合会、仙台市レクリエーション協会、仙台市スポーツ協会、仙台市中学校体育連盟、仙台市スポーツ推進委員協議会への交付状況です。昨年度と同額の交付を予定しております。以上で報告を終わります。

鈴木会長

事務局よりご説明いただきましたが、何かご意見等がございましたらお願いいたします。委員の皆さんが、する、みる、ささえる、ひろがる、のどれかに関わっていらっしゃると思いますがいかがですか。

猪又委員

仙台市主催ではないのですが、海浜エリアの活性化として2016年から毎年12月に若林シーサイドマラソンが開催されていると思います。今年は、深沼海水浴場も再開されますので、これまでは直接的には関わりはなかったかも知れないのですが、今後の見通しなど何かご見解はありますか。

事務局

シーサイドマラソンと仙台市が今後どのような形で繋がることのできるのか一考しなければいけないところもあると思いますので、もう少し勉強させていただければと思います。

吉田委員

仙台市、楽天野球団が野球連盟と一緒に駅伝マラソン大会を開催していましたが、コロナで辞めている状況です。楽天球場で、各チーム9人の駅伝と学年別のマラソン大会が行われ、参加者の皆さんがすごく喜んでいるので、ぜひそういう大会をまた続けていただきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

事務局

今後、野球連盟さんとお話をさせていただきながら、実現に向けて動いてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

岡本委員

マイタウンスポーツデーに、私も息子を連れて参加させていただいております。ポッチャが教科書に載っているので、子供たちに大変人気があります。学校で行うスポーツももちろんですが、教科書に載っているものをやると、私共も、非常に進めやすいので、ぜひ、マイタウンスポーツデーに加えていただきたいと思います。もう1点は、リレーマラソンに私も参加しているのですが、コロナ禍前は、未就学児が走るキッズランがあって、お子さん連れの方が非常に喜んでいました。昨年、芝スタンドでの応援がオッケーになったのですが、キッズランはなかったので、キッズランを再開してもらいたいという声があがっていましたのでご検討をお願いします。

事務局

2点のお話でしたが、ポッチャのお話は、マイタウンスポーツ協会さんとお話をしていきたいと思います。リレーマラソンのキッズランの件は、事務局でも話をしていきたいと思います。ご提案ありがとうございます

います。

鈴木会長

特にございませんようでしたら次に進めていきたいと思いますがいかがでしょうか。

全委員

異議なし。

鈴木会長

報告事項3 仙台市スポーツ推進計画2022-2031に基づく取り組みについて、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

お手元の報告資料3をご覧ください。仙台市スポーツ推進計画2022-2031に基づく取り組みについてご説明いたします。仙台市スポーツ推進計画は、仙台市基本計画を上位計画とした、本市におけるスポーツ推進の基本となる計画であり、国のスポーツ基本法に定められております地方スポーツ推進計画として、令和4年度から第二期計画を開始しております。第二期の計画期間は令和4年度から13年度までとしており、令和7年度にスポーツに関する意識調査を実施した上で、中間年にあたる令和8年度に見直しを行う予定としております。計画に基づく取り組みの実施状況につきましては、本審議会に報告いたすこととしておりますことから、令和5年度の取り組みについてご報告させていただくものです。

次のページをご覧ください。令和5年度の主な実績についてご説明いたします。アクティブライフスタイルの推進につきましては、日常生活の中で、意識的、継続的に体を動かすことの習慣化を目指すもので、令和4年度より、スポーツ実施率の改善に向け、スポーツをするきっかけづくりや継続的に体を動かしていくための取り組みを進めてまいりました。現在の計画を策定する際のアンケート調査では、20歳から49歳の女性の方が、同じ世代の男性と比べると、スポーツ実施率が低いという結果がございました。この結果を踏まえ、スポーツに親しむ市民を増やすためには、子供や若い世代の参加が不可欠であると考え、令和5年度は、親子で取り組めるイベントの充実を図ってきたところでございます。具体的には、いいね！スポーツせんだいアクティブライフスタイル推進事業として、実行委員会の皆様と連携をとりながら、継続的に体を動かしていくための各種事業を実施いたしました。各種媒体によるアクティブライフスタイルの啓発を行った他、プロスポーツチームと連携したウォーキングイベント等を開催しております。イベントに参加した方は、ただ歩くだけだと子供も参加したがるがないが、試合観戦もできて、運動する良いきっかけになった。親子で参加できるイベントは、今後も参加したい、そのような声をいただき、親子でスポーツに親しんでいただきながら、体を動かすきっかけ作りの場を提供することができたものと考えております。また2回目となります、子供たちがスポーツを始めるきっかけづくりを目的とした、発見！はじめて

スポーツチャレンジフェスタ2023を開催いたしました。イベントでは、複数の在仙プロスポーツチームや地域で活躍するスポーツ団体が集まり、スポーツ体験教室やスポーツ体験コーナーを実施しました。今後も、参加者のアンケートなどを通じて、スポーツの習慣化につなげるための情報を蓄積し、活用できるようにしてまいりたいと考えております。令和5年度はアクティブライフスタイルの啓発キャンペーンやスポーツの取り組み状況に応じた各種施策を展開したほか、スポーツ施設の計画的な改修により、機能向上やバリアフリー化を進めてまいりました。

次のページをご覧ください。地域コミュニティ活性化につながるスポーツ機会の充実につきましては、各種市民参加型のイベントを開催したほか、地域スポーツ団体の活動支援を行いました。仙台リレーマラソンは、コロナ禍には、宮城県在住者限定とするなどの感染対策を講じながら実施してまいりましたが4年ぶりに通常開催することができ、多くの声援と笑顔があふれる大会となりました。3番、スポーツを核としたにぎわいの創出につきましては、仙台国際ハーフマラソンなどのスポーツイベントや全国規模の大会を予定通り開催することができました。引き続きスポーツコミッションせんだいと連携し、アフターコロナにおけるまちのにぎわい創出に向けて、大規模スポーツイベントのさらなる誘致、開催により、スポーツ振興を通じた交流人口の拡大や地域の活性化を図ってまいります。

次のページをご覧ください。3、計画全体の成果指標についてご説明いたします。計画全体の成果指標といたしまして、週1回以上スポーツを行う15歳以上の市民の割合を設定しております。年度ごとの目標値は設けておりませんが、スポーツをしない方の理由は、時間がない、忙しいといった生活スタイルの多様化などが背景にあると認識しております。目標の達成に向けては、アクティブライフスタイルの推進を加速させることが肝要と考えており、重点施策である、スポーツに親しむ意欲の喚起、子どものスポーツ推進、高齢者や障害者がスポーツに参画しやすい環境づくりの推進などの取り組みを進めるとともに、スポーツへの関心を持っていただくために、地域スポーツ活動の情報発信、プロスポーツとの連携によるイベント開催、情報発信をしっかりと行ってまいりたいと考えております。令和7年度には、スポーツに関する意識調査の実施を予定しておりますので、前回令和2年度に調査いたしました結果を上回る成果を得ることができまよう、引き続き、様々な施策と組み合わせた取り組みを重ねながら、アクティブライフスタイルの定着を図ってまいりたいと考えております。以上で、仙台市スポーツ推進計画に基づく取り組みについてのご報告を終わります。

鈴木会長

事務局より事業の説明をいただきましたが、ご質問ございませんでしょうか。

熊谷委員

推進計画を作成した時に、体育館のバリアフリー化とスポーツ施設に障害者スポーツ指導員を配置することが入っていたと思うので、現状をお伺いします。

事務局

仙台市では、大規模修繕を計画的に行っており、昨年度は泉総合運動場、秋保体育館などを改修しているところです。その際に、スロープへの手すりの設置や泉総合運動場の武道館にエレベーターを設けるといったバリアフリーの取り組みを行っております。今年度は、中田温水プールで車椅子用の駐車スペースを使いやすいように広げ、段差を解消する改修を行っているところです。障害者スポーツ指導員の配置については、スポーツ振興事業団で有資格者の配置を進めているところですが、すべての施設までは広がっていない状況ですので、今後とも指定管理者と話をしてみたいと考えているところでございます。

熊谷委員

楽天野球団が、球場のバリアフリー化を行う際には、県の施設なので県に話がいくようで、当団体とは別な団体のヒアリングがあったという情報が入っています。仙台市としても、改修の際に、できれば当事者の意見も通るようにしていただくと、皆さんが一生懸命やっている部分が、見える化、されると私は思いますので、ぜひご検討いただきたいと思います。岡本先生がおっしゃっていたポッチャですが、ちょうどうちの団体が仙台市長杯というポッチャ大会をやっておりますので、先生のご協力をいただければと思います。

尾地委員

令和5年度に、泉区学区民体育振興会が、親子で参加できるポッチャ大会を開催して50名を超える子供たちの参加がありました。私は、地元の地区社会福祉協議会の会長の立場でもありますが、高齢者スポーツとしても、ポッチャを行うと皆さん喜んで参加をしてくださって、サークルもできています。体育振興会と社会福祉協議会が連携して、世代間交流のポッチャ大会をニュースポーツの一環として行うのですけども、たくさんの子供の参加がありました。スポーツの定義は、一般的にはチャンピオンスポーツといいますが、私たちの事業でもバレー、ソフトボール、卓球、バドミントンを中心に行っていますが、ライフスタイルの変化や社会的な人口の構造変化があって、なかなか参加者を募ることが難しくなったのも事実です。先日、佐藤委員にもお力添えをいただき、仙台市学区民体育振興会のバレーボール大会を行いました。これは伝統ある大会ですけれども、参加チームが集まらないという現状がございまして、5区の代表チームとして24チームが確保できず、今年度から16チームに減りました。それでも、区によっては、代表チームの確保に苦慮しています。来年度から小学校区でしかエントリーができない体育振興会の仕組みを少し変えて、中学校区に広げるという見直しも検討しています。スポーツ少年団もたくさん種目があ

って、一生懸命やっていますが、私が教えていた野球チームも野球をする子供がいなくなりなくなりました。世代間を超えて、スポーツに接することをもっとアピールすることで、結果としてアクティブライフスタイルの推進につながり、スポーツ実施率70%の実現に向かっていくのではないかと考えています。

鈴木会長

ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。大会に関わっている方もおられますが、佐藤委員いかがですか。

佐藤委員

私は、学区民体育振興会さんと25年ほどお付き合いさせていただいています。私が選手として出ていた頃は、30年以上前の話ですが、参加者が多く、盛大に行っていた記憶があります。今は、チーム数が減って寂しい思いをしています。参加者が集まらない理由は何かと考えたのですが、人を集めてくれる、チームの上に立ってやってくれる方がいなくなったのもあると思います。参加者を増やすためには、日頃からのコミュニティ、人とのかかわり合いが大事なのだと考えています。そういう意味でも、小さいお子様を連れてきて、一緒にスポーツをする、親子でスポーツをするところから始まって、それが根づいていって、人との繋がりが地域に広がっていくと思います。

鈴木会長

スポーツをきっかけに、いろんな世代がつながっていくと思いますが、学校の現場ではいかがでしょうか。

洞口委員

学校現場では、コロナ禍前はいろいろやってきましたけれども、精選して残すものは残す。大事なところは何なのか、各学校で話し合いがなされていると思います。以前、南材木町小学校では、学年ごとのバレーボール大会があって、そこから区PTA連合会のバレーやいろんなところにも繋がっていった流れがありました。コロナ禍の影響が非常に大きいと思うところがありますが、コロナも収束してきたので、今後、各学校でも地域と一緒に何かできないかということで動いていけると考えています。

岡崎副会長

アクティブライフスタイルの定義は、この推進計画にあるのですが、今まではスポーツだけを取り上げていたのですが、日常生活での活動も含めて、これからは推進していく必要があるということだったと思います。先ほどアクティブライフスタイルの取り組みを推進していくという言葉があったと思いますが、今後こういった形で取り組みを広げていこうと考えているのかお伺いします。

事務局

アクティブライフスタイルの取り組みについては、一番スポーツに取り組んでいない女性の20代から50歳までの方に積極的に取り組んでいただく

というところを目指しているところです。そのためには、お子様と一緒に活動することも肝要だと考えており、様々なイベントを通じて親子で参加していただき、スポーツに取り組むきっかけづくりを進めてまいります。

岡崎副会長

イベントに参加するのが苦手な子が、スポーツ大会をやりますと言ったときに参加するかというとなかなか難しい現状もあると思います。日常生活の中で取り組めるような仕掛けがあるといいと思うのですが、取り組みを行う上で、難しい点があるのか、やはりイベントを中心にやらざるをえないという現状があるのでしょうか。

事務局

日常生活の中でも、もちろん取り組んでいくことが大事だと考えております。例えば、ウォーキングもスポーツと捉え、ウォーキングアプリを使って積極的にウォーキングを行っていただくような仕掛けなども進めているところです。

岡崎副会長

この推進計画も私も少なからず関わらせていただき、作った手前何かやらなくてはと思ひまして、宮城野小学校で、学校現場に入り込みながら体育、あるいは遊び、休み時間等に、特に苦手な子を意識しながら、活動量を増やすような取り組みを行っています。推進計画ともリンクしている取り組みに対して、何かサポート体制がありますか。

事務局

スポーツ振興課もそのような活動にはぜひ、関わらせていただきたいと思いますが、学校での活動としては教育委員会の方とも少しお話をさせていただきながら、必要な活動をお手伝いさせていただければと思います。

事務局

スポーツとは何かという定義の話に近いと思いますが、普段歩くよりも少し速いスピードで歩くとか、そういった意識的に行うものも実はスポーツで、日常生活から少し上がったところのスポーツの間みたいなのところがあると思っています。スポーツ推進計画も万全ではなくて、これからどんどん深化させ見直しをしていきますが、スポーツへの意識づけをどこまで支援できるかは、お金の話なのか意識づけなのか、場を提供するのかわいんなやり方があると思います。今後、取り組みを一步進めるためにどんなことが我々としてできるのか、地域の皆さんと組んだらこんなことまでできる。そのような議論を進めていく中で、何か支援ができるようにできないかということも出てくると思います。今年やれる事、来年やれる事、見直しのときにできる事について考えていく努力をしていきたいと思ひます。

岡崎副会長

わかりました。

鈴木会長

ありがとうございます。推進計画の検討委員会に関わった委員がここに5人いますが、スポーツの定義自体が、オリンピックの世界から大きく半世紀で大きく変わってきているところについて行けない部分があって、計画を策定するときにもすごく思いました。幼児教育、家庭の中でのでんぐり返しの運動もなくなって、学校に入る前の遊びが変わってきていると思います。審議会には、それぞれバックグラウンドが違う委員が集まっているので、推進計画でいうところの身体運動についても何か提案できることがあるといいと思います。仙台だとスケートがウィンタースポーツとしてありますけれども、ぜひ、阿部委員から、今誰がスケートをやっているか現状をお聞きしたいのですが。

阿部委員

スケートをする子供はかなり減ってきていますが、大人の層がコロナ禍を境に一気に増えて10年前と比べると倍の人数です。コロナの緊急事態宣言により、スケートリンクも閉鎖しましたが、教室を再開した時にたくさんの方が戻ってきてくれました。テレビやアイスショーで見たのがきっかけで、ファンになって、あのリンクで滑ってみたいという方や県外から通う方もいらっしゃいます。学校に関しては、毎年、校外学習や体育の授業の一環としてくる高校もあります。小学校は、校外学習として3、4年生が一番多いです。それより低年齢の幼稚園や保育園でも毎年来てくださる団体もいますし、子供会もあります。数としては、140から150団体ぐらいですが、コロナ禍前まで戻ってきていると感じています。少しでもスケートに興味を持ってもらえるように、インストラクターみんなで頑張っています。

事務局

仙台らしいスポーツは大切にしたいという気持ちがありますので、すぐ興味を持って聞かせていただいていたいただきました。ありがとうございました。

草刈委員

施設がないとできないスポーツもあって、私が小さい頃は、スケート教室やスキー教室がありましたが、小さいうちに体験しないとなかなかスポーツに関われないことがあると思います。子供が小さいと大人も一緒についていくので、親子で参加できる形で進めていただければと思います。今年はオリンピックイヤーで、いろんなスポーツで日本選手が活躍するところを見て興味を持ってもらうことができますので、スポーツをする、みる、いろんな形でスポーツをするきっかけになれば良いと思います。政令指定都市、仙台市ですから、東北をけんいんするよう、いろいろなスポーツができるように積極的に取り上げていただきたいと思います。

事務局

海外や東京に行かなくても、仙台でこれができるというようなことを財政厳しい折ですが、進めていければと思っています。

弓田委員

スポーツツーリズムを通じたにぎわいづくりは、やはり横の連携がすごく重要になってくると思います。せっかく文化観光局の下にスポーツという柱があるので、具体的にそのにぎわいづくりのために何か取り組みがあればお伺いしたいと思います。

事務局

スポーツ大会には、県外からいらっしゃる方も多いので、仙台の魅力を発信することが大事だと考えています。例えば、ハーフマラソンでは観光パンフレットをお配りしているほか、会場にキッチンカーを出して仙台の食を楽しんでいただくことや大会終了後に仙台のまちを買い物などで楽しんでいただけるようスタンプラリーを実施しております。その他スポーツコミッションが誘致した大会でも、このような取り組みを行っているところ です。

事務局

仙台は都市観光のまちで、純粹に観光で来る人ではなくて、国際会議、プロスポーツの試合やスケートショーがあるからという人が仙台を訪れています。例えば、野球ファンが仙台に来るときに、3試合があるわけですから、松島、仙台に2泊してもらって、お金を落としてもらえりような、スポーツツーリズムがあり得ると考えています。先日、秋保ビジターセンターに行って、スノーシューの良いコースがあることを初めて知りました。アドベンチャーツーリズム的なツアーがあるようです。仙台の冬は閑散期ですが、冬に楽しめる観光で、秋保、作並に泊まってもらい新しい観光コンテンツができるのではないかと考えています。スポーツの概念、定義の話が今日1つのテーマだったと思いますが、5月末に、ポケモンGOが仙台でありまして、子供を含めてたくさんの方がゲームをしながらまちを歩きました。そういったコンテンツの誘致は、観光とつながることができて、スポーツもできるという可能性があって、これまでのスポーツの概念を広げることによって、スポーツシティとしてのポテンシャルを開花させることができるのではないかと考えています。

弓田委員

スポーツを目的に来ている人たちをどうやって動かしていくかということも大事だと思いますが、まさしく今のお話のとおり、既に来ている方に、体験ものとしてスポーツを追加していく、いわゆるコト消費ができると思います。鑑賞する映画だと話の筋がわかるともう1回見ることはあまりないですけど、スポーツであれば、シーズンを変えれば見える景色や体験が異なってくるので、横の連携でスポーツを乗せる取り組みも重要だと感じました。もう1つ、アクティブライフスタイルの推進の実績についてお伺いします。令和4年度の実績と比べて参加者数が増えているところがありますが、回数をただ単に増やしたのか、何か要因があったのでしょうか。

事務局

発見！はじめてスポーツチャレンジフェスタでは、小学校1年生から3年生を対象に、楽天イーグルスの野球教室、ベガルタ仙台のサッカー教室や陸上教室など様々実施しています。応募をいただいて抽選に漏れてしまった方が多数おりましたので、当日予約がなくても、参加いただけるようなニュースポーツの体験やイベントも同時に実施しましたところ、令和5年度には1,231名の参加をいただきました。元気はつらつチャレンジカード、トワイライト・パスについては、コロナの影響を受けていたのが、従来どおりに利用者が戻ってきたことが要因としてあると思っています。せんだいアクティブライフスタイル推進事業のイベントについては、令和4年度は、対象を働く世代の女性に限定しており、約40名の方に4回、5回程度の教室を継続して参加いただきました。参加者の満足度はかなり高かったのですが、裾野を拡大するということで少し課題を残しました。令和5年度は、対象を働く世代の男女に広げて、お子さんにも参加いただけるイベントを実施することで、参加者の方を増やしたところです。

弓田委員

ありがとうございます。参加者がこれだけ増えていたので、情報発信の成果だったのか、コンテンツの成果だったのかを整理していくと次のヒントになると思って質問させていただきました。

岡崎副会長

話が戻りますが、先ほどの定義に則れば、旅行もスポーツですし、ポケモンGOで歩き回ることもスポーツです。そうした企画と一緒にあって、広げて、推進していけるといいと思いました。

尾地委員

マイタウンスポーツデーでは、元気フィールドで電子のサバゲーをやっていました。サバイバルゲームは、実際に打ちますが、それをレーザーでするものがあって、子供から大人まですごく人が集まっていました。やはり、スポーツの切り口を広げていくことで、裾野を広げていけることがあると思います。仙台市学区民体育振興会連合会の研修会で、従来は講演をお願いしていましたが、切り口を変えて、去年はハンドボール大会、今年はバドミントン大会を観戦させてもらいました。私は、ハンドボールを初めて見たのですが、とてもすごいと思いました。参加した方も同じ感想を持ちましたが、それにしては空席が非常に多いと感じました。せっかくコミッション事業として行っているのですから、もっと情報発信して、トップアスリートの普段見られないプレーを多くの方に見てもらいたいと思いました。

猪又委員

尾地委員の話と関連しますが、つくば市のみどりの学園という小中一貫校を訪問してきました。ICT教育がとても盛んな学校で、体育の授業でHADOというものをやっていました。ゴーグルからビームが出てきて、それを相手に当て点数を競い合うものですが結構体を使います。なるほど、

こういうのがあるのだなと思いましたが、つくば市だからできることなのか、それとも仙台市でもできるのか、学校現場の先生方と共有しながら生かしていただきたいと思います。仙台市では、親子で参加できるイベントとして、ファミリーランも人気があって良いと思いますが、若林区で開催されたポッチャ大会に行った際、家族でスポーツをする姿がとても印象に残っています。障害者スポーツに限らず、家族で体験できるものがありますか。

事務局

アクティブライフスタイルのイベントとして、昨年度ベガルタ仙台などのプロスポーツチームと連携したウォークラリーを実施しました。親子で参加いただけるイベントで、ベビーカーを押しながら参加された方やおじいさん、おばあさんまで、ご家族で参加いただきました。普段参加する機会がないけれども、家族で参加できるイベントだと、参加しやすいというお話もありましたので、小さい方からご高齢の方までご自身のペースで参加いただけるイベントというのを今後も実施していければと考えております。

鈴木会長

ありがとうございます。そのほか特によろしければ報告資料3については以上で終わりたいと思いますがよろしいですか。

全委員

異議なし。

鈴木会長

ありがとうございます。以上をもちまして、本日の議事の一切を終了させて、いただきたいと思います。事務局に進行をお返しいたします。

事務局

以上をもちまして、本日の審議会を閉会いたします。長時間にわたりご審議を賜り、ありがとうございました。

(4) 閉 会